

令和7年度 主な人権啓発DVDについて

■兵庫県人権啓発ビデオ

「あなたのいる庭」 (35分)

社会には、虐待や貧困、死別など様々な理由で保護者と暮らせず、児童養護施設など社会的養護のもとで暮らしているこどもたち、そして社会的養護下から自立したが、家族からのサポートを得られずに生きる人たち（ケアリーバー）がいます。社会的養護の現状や実態を知る人は少なく、世間からの無理解と偏見にさらされ、居場所を見い出せず、進学や就職など生きる上で様々な困難に直面している現状があります。次代の社会を担うこどもたちが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていかなければなりません。「こどもと人権」を考え、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的としています。



■部落の心を伝えたいシリーズ＜番外編＞

部落差別 まだあるの？ どこにあるの？ なくせるの？～ 奥田均 ～

(30分)

近畿大学名誉教授の奥田均さんは、これまで実践の場で、教育の場で、また様々な著作を通して、長年に亘って部落問題と向き合い続けてきました。

部落差別解消推進法が施行されて以降も、まだまだ根強く残る「まだあるの？どこにあるの？なくせるの？」と

いう素朴かつ根本的な問いに、分かりやすく丁寧に答える講演は全国各地で大きな反響を呼んでいます。豊富な体験、積み上げた研究実績、最新データの活用を駆使してわかりやすく解説していただきます。



■母のさがしもの

～認知症とともに生きる（32分）

誰もが認知症に関わる可能性のある現代社会において、認知症の人が尊厳を保持しながら希望を持って暮らしていくためには、周囲の人が認知症に対する正しい知識と理解を持つことが重要です。

認知症は人によって症状も様々です。この作品は、ある家族の視点を通じて、症例を織り交ぜながら認知症に関する理解を深め、認知症の人の不安や家族の悩みを知り、本人や家族の孤立を防ぐために介護者や地域の交流の重要性を示すと同時に、本人の気持ちに寄り添うことの大切さを学ぶドラマ形式の映像教材です。



■兵庫県人権啓発ビデオ

「大切なひと」（34分）

現代社会におけるインターネットは利便性が高く、SNSや動画投稿サイトなどを通して自由に意思表示することができるのが特徴です。一方で、インターネット上では他者からの評価を自身の評価と誤認し、部落差別、外国人差別といった偏見や差別を助長するような情報を発信するような行為がみられます。ときに投稿者自身も第三者から誹謗中傷を受けることがあり、現在深刻な人権問題となっています。

インターネット上の一部の情報が、誤った認識や差別意識を助長すること、表現の自由を逸脱した許されない行為であることに気づく大切さ、差別されている当事者が訴え続けるという負担を強いる社会構造の実態について理解するとともに、差別のない社会、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的としています。



■兵庫県人権啓発ビデオ

「バースデイ」 (37 分)

テーマは「性の多様性を認め合う～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～」です。

性的少数者については、依然として社会理解が進まず、差別や偏見、配慮に欠けた対応などで、自身の思いや悩みを打ち明けることが難しく、生きづらさを感じている状況など様々な問題があり、深刻な人権問題になっています。一方、性的少数者であることを打ち明けられた家族や友人等は、偏見や知識不足によって、理解しようと向き合う前に混乱や抵抗感にとらわれてしまうことがあります。

この作品をきっかけに性的少数者について理解し、その多様性を認め互いの人権を尊重することは、すべての人が自分らしく生きていける社会につながっていきます。



■あなたの笑顔がくれたもの

～周りが見えにくい障害・生きづらさ～ (37 分)

発達障害、オストメイト、ヤングケアラーなど周りからは見えにくい生きづらさを抱えている人と関わることによって気づく決めつけや自分の思い込み。一人一人が考えや感じ方も違う人間であるということを理解して向き合うことの大切さを学び、「人権」について話し合うきっかけとなる作品です。

一人一人が考えや感じ方も違う人間であるという事を理解して向き合うことの大切さをこのドラマを通して学んでいくことができます。



■シェアしてみたたらわかったこと（46分）

主人公が上京し、期待を胸に入居したシェアハウスには、個性豊かな住人たちが暮らしていました。住人たちと時間、空間、思いをシェアして、主人公が気づいたことを描きます。

- ・オープニング

シェアハウス生活の始まり

- ・外国人に関する人権

「外国人、キライですか？」

- ・性自認や性的指向に関する人権

「素敵な女性になれると思っていた」

- ・外から見えにくい障害のある人の人権

「わたし、発達障害なのです」

- ・災害時の人権

- ・エンディング

シェアしてみたたらわかったこと



■家庭からふりかえる人権

話せてよかった（27分）

日常の中の思い込みによって生じる問題を描き、相互理解のためのコミュニケーションによって、その問題と向き合うことを提案します。

家庭の人間関係は、私たちの人権意識を育む基盤です。そこからふりかえることで、組織や社会における人権意識も見つめ直すことができるのではないでしょうか。自分の中にある思い込みに気づき、自分も相手も尊重する人間関係を築くために、職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけをつくります。



■シリーズ映像でみる人権の歴史

第9巻 芸能と差別 ～文化を生み育てた人々～ (20分)

室町時代に活躍した観阿弥、世阿弥が洗練させた能は、狂言とともに民衆の心を捉え、広い支持を得ていましたが、彼らは差別を受けていました。

しかし、将軍や大名たちからの手厚い保護を受け、武士から庶民にまで愛される日本の代表的な芸能の地位を獲得しました。

その後の歌舞伎や人形浄瑠璃などの芸能も、被差別民によって担われていましたが、多くの人たちの人気を博していくことで、差別を乗り越えた交流が広がっていきました。

この作品では、室町時代から江戸後期に至るまでの「能」「歌舞伎」「人形浄瑠璃」などを取り上げつつ、いかに芸能が差別を乗り越えて支援した民衆によって支えられ発展し、現在まで継承されているかを学びます。



■シリーズ映像でみる人権の歴史

第10巻 差別のない社会へ ～私たちはどう生きるか～ (20分)

水平社の創立以降、差別をなくそうとする人々の努力はどのように続けられてきたのでしょうか。

戦後、基本的人権が明記された日本国憲法のもとで、その実現を求めた部落解放運動によって様々な取組がなされてきました。しかし、今もなお差別は存在し、部落問題の解決をめざして多くの人たちが取り組みを続けています。また、部落問題以外にも、平等権が保障されているはずの現代社会において、様々な差別が存在します。

この作品は4人の当事者（被差別部落出身者、在日コリアン3世、電動車いすユーザー、日本人とアメリカ人のダブル）を通じて、差別を許さない生き方はどうあるべきか、現代社会に残る差別を解決していくために自分は何ができるかを考えてもらうドラマです。



■映像で学ぶジェンダー入門

④労働とジェンダー (35分)

「女性の社会進出」が謳われる昨今ですが、女性の労働環境は様々な面において多くの課題が残されています。職場においてハイヒール着用を強制されることに抗議する#KuToo(くーとぅ)運動は広く社会の関心を集めました。統計によれば男女間の賃金格差はいまだ非常に大きく、性別による職務分離、マタニティ・ハラスメントといった問題も依然として存在します。

そうした労働におけるジェンダーの諸問題がどのようにして生み出されるのかを学び、これからの労働の在り方について考えます。



■わたしらしく あなたらしく

多様な性を生きる (38分)

多様な性が存在することに対する無知や無関心によって生じる差別や偏見。それが根強く残るいまの社会で、性的マイノリティの人にとって、本当の自分をカミングアウトすることは容易ではありません。

悩みながらも自分らしく生きようとする性的マイノリティの人たちの姿を通して、多様な性が共に生きる社会はどうあるべきかを考えます。



■許すな「えせ同和行為」

～あなたの会社を不当な要求から守ろう～ (36分)

「えせ同和行為」とは、同和問題を口実にして、企業・個人や官公署などに不当な利益や義務のないことを求める行為を指します。

えせ同和行為は、同和問題に関する誤った認識を植え付け、偏見や差別を助長する要因となっており、同和問題の解決を阻害するものです。

この作品では、えせ同和行為をはじめとする不当要求行為の主な事例をドラマ形式で具体的に紹介し、心構えと対策を分かりやすく紹介しています。



■ハラスメントの裏に潜む無意識の偏見アンコンシャス・バイアス 職場のコミュニケーション向上のヒント (24分)

「アンコンシャス・バイアス」とは、無意識の偏見や思い込みのことで、日常の何気ない言動の中にも表れ、職場ではハラスメントにつながってしまうことがあります。しかし、アンコンシャス・バイアスは誰もが持っていて、完全になくせるものではありません。大切なことは、「自分にもアンコンシャス・バイアスがあるはず」と意識してコミュニケーションを行うことです。

この教材は、登場人物の視点や立場が変化する構成によって無意識の偏見をみえる化し、どのようにバイアスと向き合っていくかを自分ごととして考えることができる内容になっています。

自覚なくハラスメントの加害者とならないために……。職場のコミュニケーションを見直すきっかけとしてお役立てください。

